

肥育牛への飼料用米と生稲わらサイレージ給与で 国産飼料の安定供給が可能に

海外からの輸入穀物に過度に依存している我が国の肉用牛肥育経営は、穀物の国際価格や為替などに強く影響されることから、国産飼料に立脚した肥育経営の確立が求められています。富山県農林水産総合技術センター畜産研究所は、これまで黒毛和種去勢牛の肥育後期に濃厚飼料の5割を飼料用米で代替えた配合飼料を給与してもトウモロコシ給与時と同等の枝肉成績等が得られることを明らかにしてきました。そこで、飼料用多給時の粗飼料として生稲わらサイレージを給与した場合の枝肉成績や飼養成績を明らかにしましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 肥育後期（20～26 か月齢）に、2mm 程度に粉砕した富山県産「てんたかく」の玄米の混合割合を 50%DM とする配合飼料と乾燥稲わらを分離給与する「乾燥稲わら区」と生稲わらサイレージを分離給与する「生稲わらサイレージ区」を設定し、黒毛和種去勢牛を各試験区にそれぞれ 6 頭、7 頭を供試して飼養試験を行いました。各試験区の TDN 含量はそれぞれ 80.5%DM で、国産飼料の利用割合は 64%FM です。
2. 粗飼料の乾物摂取量は生稲わらサイレージ区で有意に高くなりましたが、乾物摂取量、日増体量および飼料要求率では差がなく、1 頭当たりの飼料費は約 1 割程度低減できます。
3. 枝肉成績は、生稲わらサイレージ区できめ・締まり等級がやや優れ、4 等級以上の上物率は乾燥稲わら区、生稲わらサイレージ区がそれぞれ 66.7%、100%でした。
4. ビタミン A 欠乏症は両区とも 23 ヶ月齢で認められ、また、血中ビタミン E 濃度は生稲わらサイレージ区でやや高くなりました。



写真1 2mm粉砕した飼料用玄米



写真2 生稲わらサイレージの収穫・調製



写真3 生稲わらサイレージ区の枝肉断面

☆ 活用面での留意点

飼料用米の多給は、トウモロコシ給与に比較して血中ビタミンA濃度が低下しやすいので欠乏レベルに達しないように留意して下さい。詳しくは、富山県農林水産総合技術センター畜産研究所酪農肉牛課 高平寧子（TEL：076-469-5921）にお問い合わせ下さい。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）